

短剣道の本旨

- 第1 短剣道は、わが国の伝統的な武術である剣術の「片手による小太刀の技」を基調として、明治中期に創成され発展した武道である。
- 第2 短剣道は、武士道の美風である、「誠実」「礼節」「勇気」「質実剛健」及び「克己心」等を徳目として錬磨し、社会に有為な人間の育成を目的とするものである。
- 第3 短剣道は、「突く」「抜く」「打つ」「払う」「かわす」「足さばき」及び「制体動作」等の身体活動を通して、健康で豊かな社会生活を営むための、国民の健康・体力づくりに寄与するものである。
- 第4 短剣道は、短竹刀を片手で操作し、「突き技」「打ち技」「入り身制体技」により、比較的近い間合いで競い合う競技であり、怯まず攻勢的なところに特色がある。また、「短よく長を制する」ところに特徴があり、異種の武道種目との試合にも適応できる。
- 第5 短剣道は、稽古と試合を通じて、「知」「情」「意」のバランスのとれた心身の発達を図り、社会への適応力を育成し、心肺機能・巧緻性・敏捷性・制体能力及び持久力を高めることができる。